

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業
(困難を抱える親子を対象とした自然体験活動推進事業)

児童養護施設等と連携した自然体験活動推進事業

鳥取県

【事業のポイント】

- 体験格差の是正
- 体験機会の増加による子どもたちの自己肯定感等の向上



スキー体験

1. 企画

(1) 事業実施の背景

自然体験活動は、子どもたちに達成感や自己肯定感を与えとともに、仲間と行うことで協調性や自立性などを育むことのできる青少年の健全育成のために大切な活動であるが、家庭環境の違い等によって経験に差が生じている。

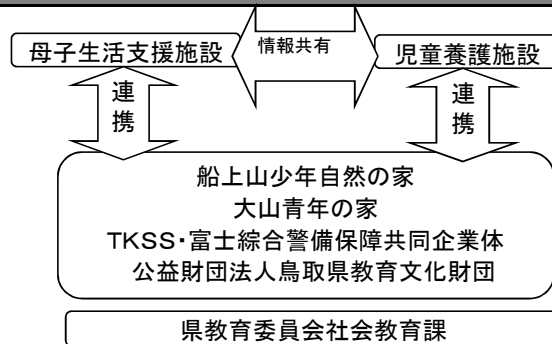
(2) ねらい

家庭環境の違い等によって経験に差が生じる「体験格差」を是正するための方法のひとつとして、鳥取県内の児童養護施設、母子生活支援施設と県立青少年社会教育施設が連携し、施設入所者を対象に自然体験活動を行うとともに、その効果的な方法等を検討する。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

- ・鳥取県立船上山少年自然の家
- ・鳥取県立大山青年の家
- ・鳥取県内児童養護施設
- ・鳥取県内母子生活支援施設
- ・鳥取県教育委員会事務局社会教育課
- ・TKSS・富士総合警備保障共同企業体
(船上山少年自然の家指定管理者)
- ・公益財団法人鳥取県教育文化財団
(大山青年の家指定管理者)



(2) 具体的な取組の概要

ア、自然体験活動検討会の開催

県内児童養護施設や母子生活支援施設の入所者にとって、効果的な自然体験活動を実施するため、各施設職員が県立青少年社会教育施設の指導員等と連携して、自然体験活動の狙いを明確化し、実施方法・内容等を検討した。また、自然体験活動実施後は、各施設で行った活動内容等を発表する事例検討の場を設け、今後の活動等を検討した。

対象：県内児童養護施設等職員及び県立青少年社会教育施設職員
(事例報告会には、自然体験活動実施施設以外の福祉施設も参加した。)

実施日：準備検討会 6～12月、事例報告会 2月7日

イ、自然体験活動の実施

準備検討会で検討した内容に基づき、自然体験活動を実施した。

対象：県内児童養護施設等入所者及び職員

実施日：7月27日ほか計9回

参加施設：6施設(施設内の各部等を含む9施設)

参加人数：合計147人(児童・生徒71人、保護者9人、職員67人)

実施場所：県立船上山少年自然の家、県立大山青年の家他

実施内容：県立船上山少年自然の家、県立大山青年の家の指導員の指導・助言により、日帰りあるいは1泊2日の日程で自然体験活動を行った。

(自然散策、野外炊事、スキー、そり、室内テント泊、薪割り体験、カヌー、火おこし、バーベキュー、バームクーヘン作り、クラフト、ウッドクラフト、滝つぼダイビング)

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
平成29年6月	各児童養護施設等と鳥取県教育委員会事務局社会教育課が活動方法等について協議
6～12月	各児童養護施設等が自然体験約1ヶ月前に県立青少年社会教育施設と体験活動内容を協議
7月27日	・対 象 母子生活支援施設入所者 ・利用施設 船上山少年自然の家 ・実施内容 滝つぼダイビング
8月17日	・対 象 母子生活支援施設入所者 ・利用施設 船上山少年自然の家の出前活動 ・実施内容 パームクーヘン作り、クラフト
9月10日	・対 象 母子生活支援施設入所者 ・利用施設 大山青年の家 ・実施内容 カヌー、ウッドクラフト
9月29日	・対 象 児童養護施設入所者 ・利用施設 船上山少年自然の家 ・実施内容 カヌー、バーベキュー
10月7日～8日	・対 象 児童養護施設入所者 ・利用施設 大山青年の家 ・実施内容 自然散策、薪割り体験、室内テント泊、カヌー、火おこし
10月17日	・対 象 児童養護施設入所者 ・利用施設 大山青年の家 ・実施内容 自然散策、野外炊事
1月5日	・対 象 児童養護施設入所者 ・利用施設 大山青年の家 ・実施内容 スキー
平成30年 1月13日～14日	・対 象 児童養護施設入所者 ・利用施設 大山青年の家及びスキースタジアム ・実施内容 スキー、そり
1月27日～28日	・対 象 母子生活支援施設入所者 ・利用施設 大山青年の家及びスキースタジアム ・実施内容 スキー
2月7日	・会議名 平成29年度児童養護施設、母子生活支援施設と連携した自然体験活動推進事業報告会 ・参加者 平成29年度実施4施設、次年度以降実施検討施設3施設の職員及び事務局

3. 成果と課題

(1) 成果

ア、アンケート結果

○参加者総数147人(児童・生徒71人、母親9人、職員67人)

○アンケート回答数 児童・生徒47人、母親5人、9施設

「参加してよかった」100%

○アンケート項目

「子どもたちにどのような変化が見られたか」

- ・人に起こされなくて自分で起きようになった(1施設)
- ・子ども同士の関わり方がわかり、協力したり励まし合うようになった(1施設)
- ・家の外で遊ぶようになった(1施設)
- ・早寝早起きをするようになった(1施設)
- ・自分の身の回りの整理整頓を進んでするようになった(1施設)
- ・家(施設)の人たちの手伝いを進んでするようになった(1施設)
- ・自然に対する興味関心が強くなった(1施設)

イ、成果

○費用負担の軽減・体験格差の是正

様々な家庭環境にある子どもたちに、自然体験活動の機会を提供することで、施設側、参加者側の費用負担を軽減し、「体験格差」を是正することができた。

施設からは、「個人の費用負担が無いため、母親に負担をかけるという子どもたちの心配が無くなったことで、多くの参加につながった」との感想や、子どもからは、「宿泊する行事が少ないので宿泊できて嬉しかった」等の感想があった。

○体験機会の増加による子どもたちの自己肯定感等の向上

参加者は活動をやり遂げた達成感により自己肯定感の向上が見られたとともに、仲間と協力したり励まし合う体験による人間関係作りやコミュニケーションの促進ができた。

施設からは、「参加できることで、ルールやマナーを学び、協力することや仲間意識も育った」、「子ども同士がお互いに声を掛け合ったり、手助けをする姿が見られた」等の感想があった。

(2) 課題

各児童養護施設・母子生活支援施設での自然体験活動の実施が定着化するよう、各施設職員の自然体験活動に対する理解やスキルを深めていく必要がある。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

2年目

1年目の活動をもとに、継続して船上山少年自然の家・大山青年の家を活用した自然体験活動を行うとともに、各児童養護施設・母子生活支援施設の職員も自然体験活動に対する理解やスキルを深める。

1年目に実施していない児童養護施設や母子生活支援施設にも実施成果等を普及・啓発し、自然体験活動の実施の拡大を図る。

3年目

各児童養護施設・母子生活支援施設での自然体験活動の実施を定着化させる。

5. 団体プロフィール

鳥取県教育委員会事務局社会教育課
〒680-8570
鳥取県鳥取市東町1丁目271番地
電話 (0857)26-7519
ファクシミリ (0857)26-8175
電子メール shakaikyouiku@pref.tottori.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.tottori.lg.jp/shakaikyouiku/>